

ねりま父母連ニュース No.58

発行: 2021年10月
練馬区保育園父母連協会
会長: 鈴木 史織
neri_fubo@yahoo.co.jp

保育園の父母の交流と保護者の願いを実現するために

もしも、親がコロナに感染したら・・・ 子どものサポート体制を練馬区に要望

この夏、新型コロナウイルス感染症第5波は、感染力の強いデルタ株により保育現場にかつてない危機感をもたらしました。厚生労働省によると、8月26日時点で全面休園した認可保育所などの保育施設は14都道府県で179か所に上り、過去最高を記録。7月1日時点の16か所から約2ヶ月で11倍という急激なスピードで感染が拡大したのです。

現在、緊急事態宣言は解除されましたが冬にむけて第6波が懸念される状況です。



父母連が区に要望書を提出。

練馬父母連は、2月に実施したアンケート調査にもとづき、4月に区長・教育長に対して、「新型コロナウイルス感染症に関する要望書」を提出。以下の回答が保育課長名でありました。(以下、要旨)

要望1> 親が感染した時、残された子どもの養育について相談する窓口や具体的な体制がありません。親が感染した場合、子どもを預かるサポート体制を早急につくってください。

《回答》子どもの居場所の確保が課題となる場合があることは承知しています。他区と同様に、練馬区においても保健所が児童相談所や病院と協議して子どもの保護先を確保することになります。

要望2> 緊急事態宣言が出ているもど、保育園の利用を自粛している家庭も少なくありません。保育園を利用しなかった分の保育料を日割り計算で返還してください。

《回答》感染防止の観点から自主的に登園を控えた家庭に対して、保育料を返還している自治体もあることは承知しています。練馬区においては「臨時休園」になった場合に保育料を減免しています。また昨年4月の緊急事態宣言時は登園自粛を養成したため、減免を実施しています。開園を継続している以上、園の運営に係る固定費は、自主的に登園を控えた家庭の有無に関わらず発生しています。

要望3> 「職員の負担や健康・精神面」を心配する声が多数あります。希望するすべての職員、園児にPCR検査を実施してください。また、ワクチン接種の計画を教えてください。

《回答》PCR検査で結果が陰性となり、コロナウイルスに罹患していないと確認できるのは検査受診時の一時に限られるため、感染対策ガイドラインで正しい知識を各園につたえる事・・・が重要と考えて、力を注いでいます。ワクチン接種については・・・任意接種となるため、取り扱いについては慎重に対応してまいります。

父母会役員の皆さまー父母連からのお願い

父母連の活動は、各園父母会からの加盟費と寄付でまかなっています。対面での授受が難しいため、加盟費・募金は下記、郵貯口座にお振込み願います。お振込みの際は、保育園名を記載してください。

<振込先> ゆうちょ銀行 店名〇〇八(店番008)
普通 8381676 練馬区保育園父母連協会

<加盟費・年額> ●会員50世帯未満 3,000円 ●会員80世帯未満 5,000円
●会員100世帯未満 7,000円 ●会員100世帯以上 9,000円
●個人会員 1,000円(1口)以上 ●団体会員 5,000円(1口)以上

練馬区は「待機児ゼロ」、本当ですか？

練馬区は区議会やプレス発表で、今年4月の待機児童がゼロになったとしています。公表資料によると、「保育所等へ入れなかった」数は505人。そこから「その他の保育施設」(認証保育所85、1歳1年保育41、練馬こども園36)の小計162、「特定園のみ希望」304、育児休業中39を差し引くと0(ゼロ)だとしています。荷物を抱えて朝・夕の通勤途中に保育園に通うのは大変なことです。近くにある保育園や兄弟同じ園に預けたいと願うのは親のわがままではありません。保育所の整備の施策の遅れを「親のわがまま」としてしまふのは変だと思いませんか。

2021年度 総会をオンラインで開催

父母連の総会を7月18日にオンラインで開催しました。総会では事前各園父母会に送付した議案書に沿って報告。討論ではコロナ感染症拡大の中で、保護者の交流の場が減り、なかでも新入園児は保護者間の交流が難しい実態にあることが報告されました。

参加した父母会役員からは、夏祭りなどができない中での父母会活動の進め方など、悩みが出されました。一方で、コロナ感染症拡大の中でも、保護者同士の繋がりを進めようと、オンラインでの家族交流会を進めた園の経験など、工夫ある取り組みをした園保護者の紹介発言もありました。総会は提案された議案を採択。次の役員を選出しました。

<2021年度 役員>

会長: 鈴木史織(豊玉保育園委託運営委員)、代表委員: 小島直子(貫井第二保護者OB)、猿田暁生(練馬保育園父母会長)、高室弘毅(関町第三保育園父母会長)、満川知代(早宮保育園父母の会役員)、小松文加(早宮保育園父母の会役員)、青山千恵(南田中保育園父母会役員)、高野智史(豊玉第2保育園保護者)、鷲尾聡子(光が丘第四保育園父母会長)、岩城明(元栄町保育園父母会長)、事務局長: 柳沢健二(元関町第三保育園父母会長)、会計: 高橋美由紀(豊玉保育園委託運営委員)

新会長ご挨拶



2021年度ふぼれん会長に選出いただきました、鈴木史織と申します。2歳の子どものが保育園に通っており、父母会運営についてもまだまだ若輩ですが、どうぞよろしくお願い致します。私自身は、保活で、練馬父母連、保育問題協議会共催の「保育園入園説明会」に参加したのが父母連に関わるきっかけとなりました。総会での様々な園の保護者コロナ禍の悩みや父母会運営の工夫をお聞きして、横の保護者同士、父母会同士の繋がりが切実に求められていると思いました。そうしたお声にお応えできる父母連の活動をより一層取り組んでいきたいと思ひます。

おしらせ

★保育士・先輩パパママによる入園説明会(後編)のご案内★

令和4年4月入園希望の保護者向けの入園説明会。【定員100名】
10月24日(日) 13:30~15:30 石神井公園区民交流センター
2階にて。※原則会場開催。練馬区保育問題協議会主催。
お申込み・お問合せは neri_hoiku@yahoo.co.jp

★学童保育入会説明会のご案内★

練馬学童保育連絡協議会主催の学童クラブ入会説明会が開催されます。11月20日(土) 20:00~、参加方法はオンライン。
お申込み・お問合せは nerirenkyo@yahoo.co.jp

ねりま父母連へのご連絡は neri_fubo@yahoo.co.jp まで
情報は <http://neri-fuboren.sai-box.jp/>

ツイッター公式アカウントでも情報発信
練馬ふぼれん @neri_fubo で検索!



保育合研ってなあに？ —オンライン「保育合研」に参加して—

1969年に、全国の保育者、父母、研究者、栄養士、看護師、医者、行政機関など、保育や子育てにかかわる人たちが集まって始まったのが保育合研（全国保育団体合同研究集会）です。子育てや保育のことなどを話し合う分科会のほか、保育・子育て・社会問題に関する講座などの企画が催されてきました。今年の合研（53回）はコロナ感染のため、8月にオンラインでの開催となり、練馬からも多くの保育士と保護者が参加しました。

コロナ禍、不安と緊張の中で 4つの分科会に参加

ここでは4つの分科会に参加した保護者（小島直子さん）の感想を紹介します。

コロナ禍で保育園の先生方は「何が正解かわからない」のに「失敗できない」不安と緊張感の中にいます。分科会「子どもたち、大人たち、元気に暮らしていますか？」の講師：池添素さんのお話は、子どもに希望を持たせる事が大切であること。また、子どもに何か問いかけられた時、大人は無意識のうちにまず子どもの提案にノーや躊躇する言葉を返しているのではないかという事例から話が始まりました。池添さんが、ゲームを家でしている息子に関する相談に、「いいじゃない、お母さん。子どもは保育園や学校では頑張っているんだから」と、意外にも肯定した話がすごく印象に残りました。少し肩の力を抜く事ができたのです。

保育者同士で子どもの発言を共有しようと言うお話の中では、非常勤の先生の話が出ていました。非常勤の方はよく見ていると…。委託園保護者として、直営の時からの非常勤の先生が残ってくれたのを見て、4月1日のとき安心感で涙が出そうになったのを思い出しました。保護者のことを陰から支えていた非常勤（大体自分の母親に近い年齢の方が多い）の先生の存在のありがたさを感じた瞬間でした。講師がさらっと語った事に深く納得した分科会でした。

分科会「子どもの『声』を聴き取り、子どもとつくる保育」で、香川大学の松本博雄さんは、発達段階ごとの子どもの「声」



合研の様子は、雑誌『ちいさいなかま』に紹介されます。お申し込みは父母連まで。
neri_fubo@yahoo.co.jp



写真は第48回の合研の様子

をしっかりと「聴き」取る事の大切さを語っていました。乳児からゼロ・1・2歳と年齢を追った話はよく分かる内容で、子どもたちは保育園の先生たちに支えて頂いて成長していることがよく分かりました。また、分科会「夢中になってあそび込む保育を」にも参加。講師の田中浩司さん（都立大学）は、子どもの声を保護者に届ける大切さや、遊びのルールの中で子どもたちで考える大切さを語られ、心に残るお話でした。これらの講演を聴き感じた事は、やはり保育士はプロフェッショナルであるということです。

このような研修も受けながら先生方が日々、子どもや保護者に向き合ってくれている事に感謝したお話ばかりでした。



2人の子ども通算11年間の保育園生活を終えて
本当に良い保育園・信頼できる保育園とは、
子どものためなら言いにくい事でも保護者に伝える、
諭す事ができる先生方の集団だと感じました

認可外保育施設での死亡事故から3年。講演のつどいを開催

練馬の認可外保育施設で、0歳の男の子が午睡中に死亡した事故から3年たちました。まだ真相は明らかになっていませんが、事故から3周年の10月3日、練馬保育問題協議会（保問協）は、名古屋のけやきの保育園園長の平松友子さんを招いて、オンラインで講演のつどいを開催しました。平松さんは、「新しい時代と私たちの保育を語ろう」と題して、コロナ禍の現代を大きくとらえる大切さを説き、社会・保護者の状況、保育園の生活・子どもたちの状況を見つめる大切さ、こうした時だからこそ抜本的な保育制度の改革が必要だと呼びかけました。

視聴した保護者からは、「コロナ禍の中で子どもたちのために声をあげることが大切だと思った」「勇気のわく話でした」「多くの人に聞いてほしい話だと思った」といった感想が寄せられました。